

# 平成31年度予算見積調書

課室名：河川砂防課  
 担当名：荒川中流・小山川流域担当  
 内線：5135 (単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業		
B33	放水路活用浸水対策費（県単）			一般会計	土木費	河川費	河川改良費	河川改修費		
事業期間	平成30年度～	根拠法令	河川法第9条	宣言項目		03 大地震など危機への備えの強化				
				分野施策		020518 治水・治山対策の推進				
1 事業概要 近年頻発化する豪雨や台風の大型化に対し、既存の河川施設である放水路を有効に活用し、河川の洪水流量を調整することによって浸水被害の早期軽減を図る。  (1) 放水路活用浸水対策費 250,000千円				5 事業説明 (1) 事業内容 本川である中川と幸手放水路の分派点において、越流堤等の分派流量調節施設を設置し、幸手放水路への流入量を増加させ、洪水初期から中川上流排水機場を最大限稼働し、江戸川への優先的な排水を行う。  対象河川：中川（幸手放水路）  ア 測量試験業務：幸手放水路や中川の能力を最大限活用するため、現況の堤防高さ、幅、流下能力等を詳細に把握する。 イ 施設設計業務：効率的に幸手放水路に流量を分派させるため、施設の計画、種類や費用の比較検討及び詳細な設計などを行う。 効率的に幸手放水路から江戸川へ排水するため、中川上流排水機場の操作規則の見直し及び幸手放水路の改良検討などを検討する。 ウ 施設整備業務：流量調整施設の製作、設置及びそれに伴う地盤改良等の基礎工事などを行う。 中川上流排水機場の排水能力を最大限活用するため、幸手放水路の河道掘削などを行う。  (2) 事業計画 平成30年度 測量試験業務、施設設計業務および施設整備業務 平成31年度 施設整備業務 平成32年度 運用効果の検討  (3) 事業効果 既存放水路を有効に活用し、本来であれば、中川本川の整備が完了しなければ防ぐことができない下流域の浸水被害を、早期に軽減する。  (4) その他 過去の実績 平成30年度 700,000千円						
2 事業主体及び負担区分 (県 10/10)										
3 地方財政措置の状況 河川等事業債 充当率 90% (通常分90% 財対分0%) 交付税措置 なし										
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 (1) 事業に係る人件費 9,500千円×0.6人=5,700千円 (2) 組織の新設、改廃及び増員 なし										
				財 源 内 訳						
予算額		県 債						一般財源		前年との 対比
決定額	250,000	250,000						0	△450,000	
前年額	700,000	700,000						0		